

名古屋一地区における路上生活者健康保健調査に参加して

北メンタル・クリニック事務長

小西 由晃



2014年11月2日(日)、名古屋駅前、ウイंक愛知で路上生活者(当事者)の皆さんの健康保健調査を実施いたしました。北医療生協からは、6名参加しました。

はじめに

厚労省調査では、2014年1月現在全国の路上生活者は、7508人、名古屋市は264人になっているが、把握できていない方々が、多くいることは支援者の間では周知の事実です。

2008年～2009年に東京池袋で精神保健調査が実施され、精神疾患が6割の方に認められ、また4割の方に知的障害が疑われたと報告されました。

全日本民医連精神医療委員会は、格差と貧困が広がる社会の元で、最も健康で文化的な生活から疎外されているといえる路上生活者の方々への精神保健調査を実施することで、



待合室の様子。当事者の2倍のスタッフが対応(ウイंक愛知にて)

学術的に解明し、世論の合意を形成したうえで当事者支援の在り方を発展させていくための一助として取り組むことを検討しました。そして民間支援団体のNPO法人ささしまサポートセンター(SSC)と、岐阜大学保健管理センター准教授の西尾彰泰先生の合流を得て、2013年1月に実行委員会が発足しました。ボランティアの募集や当事者への宣伝、当日のスタッフ配置などたくさんの課題を各団体が分担しました。保健所と粘り強く交渉し1日診療所開設の許可を取ることができました。

調査を行うって

115名の当事者の方々から、調査に協力いただきました。心疾患の疑いがあり、名南病院に入院された

方がみえましたが、大きな混乱もなく実施することができました。実行委員会の綿密な計画があり、SSCや岐阜大学との協力体制があつての今回の大規模調査が成功しました。まためのディスカッション、感想文の中で、200名以上のボランティアや、スタッフから、「今回の調査に参加できてよかった」「貴重な調査研究資料となる」「今後の支援につなげたい」など積極的な声が多く寄せられました。翌日新聞報道(朝日・毎日)もありました。検査データ等は、まだ分析中ですので結果はまたの機会になります。当事者個別の支援はすすめています。